

どんな研究？

- 感覚運動系に起こる不思議・矛盾を発見する.
- 無意識に行われる感覚や運動生成の情報処理を解き明かす.
- 感覚情報処理に基づいたインタフェースの創出.

もたらされる変革

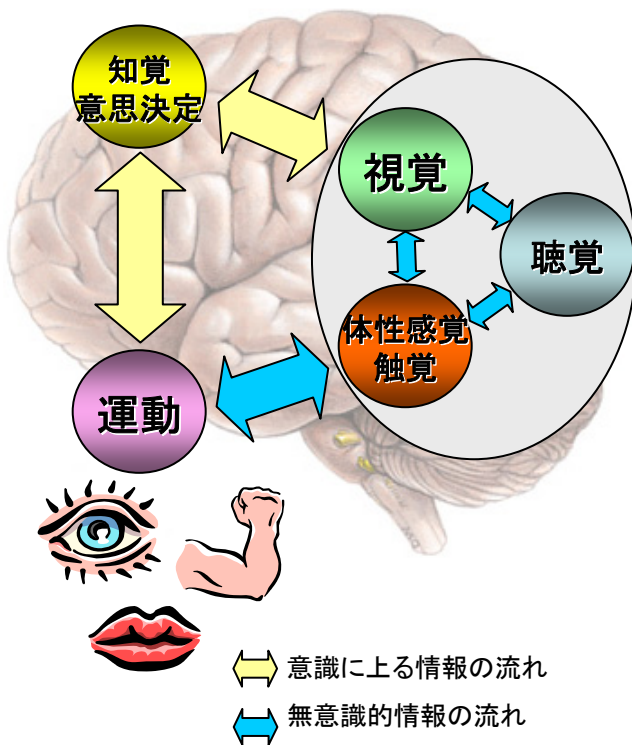
- 人間の情報処理にマッチした革新的インタフェース技術開発に貢献.
- 新しい感覚提示技術の構築への寄与.
- 運動・リハビリでのトレーニング技術への貢献.

展示紹介

- ちょっとした細工で起こる外界の知覚や運動に関係する「不思議や矛盾」を抽出.
 - それらの不思議・矛盾を引き起こす脳の情報処理の解明やインタフェースへの利用.
- ① **身体知覚の不思議** ~動かす/動かされる時~
 - ② **運動学習の不思議** ~環境が脳をスイッチ!~
 - ③ **温度感覚の不思議** ~触覚で温度感覚が変わる~
 - ④ **力感覚の錯覚を利用**して視覚障がい者を道案内

連絡先： 五味裕章
人間情報研究部
感覚運動研究グループ

脳は、目的・意図に応じて、感覚器官で捉えた外界や自分の状態（姿勢や動き、声など）の情報を使いながら、運動を生成するための情報処理を刻一刻と行っています。この情報処理の一部は「意識」に上らず、**感覚間あるいは運動生成との双方向かつ直接的インタラクション**により処理され、スムーズな運動生成に役立っています。



脳と身体の情報処理を統合的に理解するためには、従来のように単一の感覚や運動の情報処理を個別に調べるのではなく、それらの**関係性を明らかにすることが鍵**となります。このような脳と身体の統合的理解は、より自然なインタラクティブ・インタフェースの技術を構築していく上で、欠くことのできない指針や知見を提供すると考えています。